

# 令和4年度 事業計画

## 1. 運営環境

少子高齢化が進むと同時に、子どもを取り巻く環境が大きく変化する昨今において、子どもの命や健康を守ることはますます重要になってきています。加えて、長引くコロナ禍は、子どもたちの心身の健康に大きな影響を与えており、若年層の自殺者や虐待数の増加なども懸念されています。

そのような中で、小児医学研究者に求められる役割はより一層大きくなっていると同時に、小児保健従事者や子育て世代の子どもに関する問題についての理解や、きめ細やかなケアはこれまで以上に必要になっています。一方で、小児医学に振り向けられる研究費は十分とはいえない状況が続いています。また、小児医学の知識を必要としながらも、その機会を十分に得られていない小児保健従事者や子育て世代がいることも確かです。それだけに当財団への関心や期待も年々高まっています。

## 2. 令和4年度事業活動の基本方針

令和4年度は安定的な収入が見込まれるため、既存事業を着実に実行するとともに、運営の改善および強化を図ってまいります。「小児医学川野賞」や「奨学金給付」事業においては、これまでオフラインで行っていた申請や選考についても、システム化を図り、よりユーザビリティを高め、効率のよい運営を目指してまいります。また、「奨学金給付」については、経済的な支援のみならず、当財団だからこそ作り出せる先輩医師とのつながりや、教育機会についても提供を予定しています。

さらに、“小児医学研究者の一番のサポーター”になるべく、広報活動を強化し、当財団の支援する小児医学関係者の皆さまの活動を広く一般に伝えることで、多くの方の小児医学への関心を高め、社会における小児医学界のプレゼンスを高めてまいりたいと考えています。

## 3. おもな事業の実施計画および活動計画

### (1) 助成金の支給

小児医学研究者に対して助成金の交付（「研究助成」）を行います。対象は、日本国内の総合大学医学部、医科大学、医学研究機関、医療機関等で小児医学研究に従事する者となります。小児医学における研究の幅が広がっていると共に、新型コロナウイルス感染症に関連した研究の必要性も増しているため、当年度の研究助成の予算は70,000,000円とします。そのうち「一般枠」とは区別して、若手研究者の研究について「若手枠」を設け、対象者を広く募集し研究助成を行います。

また、小児医学研究の向上・発展に寄与することを目的として、小児医学に関連した医学会開催の支援（「医学会助成」）も行い、予算は3,800,000円とします。

さらに、医療施設に入院・入所中の小児患者のQOL（生活の質）向上のため、それに要する活動および設備の充実のための費用について、医療施設および医療型入所施設へ助成金の交付（「小児医療施設支援」）も行います。現在は埼玉県内の施設に限定をしておりますが、エリアの拡大可能性を踏まえ、予算は2,000,000円とします。

助成金	70,000,000円
医学会助成	3,800,000円
小児医療施設支援	2,000,000円
総額	75,800,000円

## (2) 小児医学川野賞の表彰

この賞は、小児医学研究を奨励することを目的として、設立 10 周年を記念して設けられました。平成 30 年度まで「基礎医学分野」「臨床・社会医学分野」の 2 分野での贈呈としましたが、公衆衛生など社会にとって重要である社会医学分野のさらなる発展に寄与するため、令和元年度より「臨床・社会医学分野」を 2 つに分け、「基礎医学分野」「臨床医学分野」「社会医学分野」の全 3 分野での募集を開始しました。各分野で優れた業績をあげ、今後の活躍も大いに期待される研究者に対し、小児医学川野賞をそれぞれ贈呈します。

基礎医学分野	1,000,000 円
臨床医学分野	1,000,000 円
社会医学分野	1,000,000 円
総額	3,000,000 円

## (3) 奨学金の給付

令和 4 年度も、埼玉県または千葉県または茨城県の県内の高校を卒業し、日本国内の総合大学医学部、または医科大学で小児医学を志す大学生、および小児医学研究に従事している大学院生に対して、奨学金の給付を行います。令和 4 年度は、継続給付者 19 名、新規給付者 8 名、合計で 27 名へ、月額 6 万円の給付を予定しています。

また、経済的な支援に加え、奨学生の学生生活や将来のキャリア設計に役立つよう、マナー講習や先輩医師とのつながり提供の機会を作っていく予定です。

継続給付	13,680,000 円
新規給付	5,760,000 円
総額	19,440,000 円

## (4) 小児保健に関わる人々に対する啓発活動

子どもに関する問題が年々複雑化するとともに、新型コロナウイルス感染症による生活環境の急激な変化は子どもの心身に大きな影響を与えています。その中で、日々、児童生徒に向き合う養護教諭や就学前教育・保育施設（保育所・幼保連携型認定こども園・幼稚園等）の看護職は、ますます高度な対応を求められています。

このような状況下で、養護教諭や就学前教育・保育施設の看護職が、その専門性をさらに高められるよう、児童生徒等の抱えている健康上の問題について学び考え、それらの対応について知識を深めるために行っている研修会や勉強会に対して、当財団が仲介役となり、小児科医を中心とした専門家を無料で派遣します。

講師料	1,300,000 円
旅費交通費	60,000 円
総額	1,360,000 円

## 4. 予算編成方針

収益面は、基本財産組入株式の増配および安定した寄附が期待できると予想されます。これにより費用面では、各事業運営のための十分な予算確保が可能になるため、各事業の充実や拡大に資金を振り分ける予定です。

【収益の部】

- 基本財産運用収益 . . . 株式配当金は、152,064,000円を見込みます。  
株式以外の債券の利息・配当収益を1,434,000円とします。  
以上、合計で153,498,000円を見込みます。
- 寄附金 . . . 寄付金を広く募り、16,179,869円を計画します（前期からの振替含む）。
- その他の収益 . . . 主に特定資産のうちの公社債などの有価証券による運用の  
果実を、577,800円とします。  
又、預金の利息等からの雑収益を1,500円見込みます。

以上、一般正味財産の収益合計は 170,257,169円の予算といたします。

【費用の部】

- 事業費 . . . 事業費は「3. おもな事業の実施計画および活動計画」に記載の事業内容と、これを遂行するための諸経費で構成されます。  
事業費は合計で144,760,519円を計画します。前年度と比較し、3,510,239円の増加を見込みます。
- 管理費 . . . 管理費は給与手当、旅費交通費、委託費等の財団運営に必要な費用で構成されます。  
管理費は合計で25,496,650円を計画します。前年度と比較し、6,177,451円の増加を見込みます。
- 資金調達及び設備投資の見込み . . . 借入の予定なし。以下のとおりソフトウェアの取得を予定しています（\*）

（\*）ソフトウェア取得の見込みについて

事業番号	ソフトウェアの内容	支出の予定額	資金調達方法
公1	研究助成申請システム改修	150万円	基本財産運用益
公1	奨学生用マイページ	200万円	基本財産運用益
公1	川野賞申請システム	250万円	基本財産運用益
公1	川野賞・研究助成採点システム	250万円	基本財産運用益

以上、一般正味財産の費用合計は 170,257,169円の予算といたします。

以上の結果、収益と費用の差額は、0円となる予算編成になっています。

以上